

農学140基金

—未来を拓く農学知の育成と融合

東

京大学農学部・農学生命科学研究科（以下、本研究科と略します。）は、明治7年（1874年）に内務省農事修学場として創立以来、2014年で140周年を迎えます。この間に延べ3万5千人を超える卒業・修了生を輩出し、農学さらには農林水産業を根本から支えるとともに、質の高い農学知を蓄積して参りました。

農学のミッションは、時代とともに一次産業への貢献に加えて持続可能な社会形成への貢献へと拡大しています。再生資源である生物の多様な機能を利用して、食や環境、エネルギーなど人類

の生存基盤について新たな価値を生み出すことが20世紀の消費型社会を越えたこれからの農学の使命です。こうした使命は農学だけでは果たすことはできず様々な分野と協働して農学知を展開することが必要です。本研究科では、産学官民の連携を活用した課題解決能力の養成を目的とした分野横断的な教育プログラム（アグリコクーン）の実施など、様々な教育改善を図って参りました。また、2011年3月の東日本大震災に伴う津波被害や原子力発電所事故による放射能汚染からの復興支援活動にも学生の参画を積極

的に進め、教員と学生が地元の方や他分野の研究者とともに考え行動する現場教育も実践しています。

皆さまには、農学部125周年記念事業において多

大なお寄附を戴きました。このご寄附によって創設された農学国際交流基金により、過去13年間、毎年約100名の学生に対して海外渡航の経済的支援を行うことができました。また、海外実習科目の創設など学生の国際体験を促進して参りました。今後さらに、社会をリードする人材の輩出を通して世界に貢献するとともに、研究成果によって社会の期待に応えていくためには学生や若手研究者が、希望を持って勉学や研究に専念できる環境を整備することが必要です。

そこで、本研究科では人材育成プログラムの新展開を目的とした記念事業「農学140基金」プロジェクトを企画いたしました。このプロジェクトでは、課題を自ら見だし多様な人々との連携により解決策をデザインできる農学的な人材を育成することを目指し、「未来を拓く農学知の育成と融合」プログラムを展開していきたいと存じます。



「農学140基金」プロジェクト

1. 農学教育の多元化に資する現場教育促進プロジェクト

現場経験の多様化：震災復興支援や地域おこしなど、蓄積された農学知を総合化して課題解決策をデザインする現場経験の機会提供を促進します。

海外経験の多様化：海外実習科目の増設など、特にアジアの途上国での環境問題や貧困問題への農学の貢献を実体験できる機会提供を促進します。

国際交流の多様化：学生の海外派遣や多様な留学生の受け入れにより、教育研究体験の国際化を進め、国際的に活躍する若手を育成します。

2. 農学研究新展開の人材育成プロジェクト

奨学制度：優秀な学生への経済支援体制の整備を行い、学業に専念できる環境を整えます。

若手研究者支援：若手研究者が自由な発想で研究に取り組める研究環境の整備を進めます。

先端研究交流支援：国際シンポジウムの開催支援など、先端的研究者と学生との交流機会の提供を促進します。

是非とも、本記念事業にご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

弥生 Yayoi

57 Fall 2013

編集後記

広報誌「弥生」が現在のお洒落なスタイルにリニューアルしてから8年が過ぎた。農学部の風景を巧みに切り抜いた表紙の写真を楽しみにしている人は、私ばかりではないだろう。時に写真は実物よりも素敵に写ることがある。四角いフレームに被写体を周到に配置し、余分な要素をトリミングすることで、それがもつ潜在的な魅力を最大限に引き出すことができる。あるいは見るアングルを少し傾げるだけで、見慣

れた景色がまったく別の表情を浮かべることに気付く。人為的に修正することをしなくても、素材のもつ味わいを上手にそして丁寧に抽出しているのである。これは写真に限ったことではない。「弥生」というフレームとアングルを通すことで、普段、見過ごしがちな農学部の魅力を新たに発見してもらえれば、広報室長としてこれに勝る喜びはない。

広報室長 金子豊二